

大空 —放哉だより—

第142号 2023.6.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106土庄町本町甲1082 ☎62-0037

今年ことしの放哉ほうさい忌いきでは『放哉ほうさい書簡しよかんと層雲そううん記事きじで—赴おもむく前まえと事情じじょうが違ちがったか—』と題だいして、朗読ろうどく・座談会ざだんかいが開催かいさいされました。

放哉ほうさいは須磨寺すま内の勢せいり力りよく争あらそいに巻まき込こまれ大正たいしやう14年3月頃ごろ、寺てらを去さることとなりました。その後ごのち、福井県ふくいけん小浜おばまの常高寺じやうかうじの寺男てらおとこになるも破産寸前はさんすんぜんの寺てらだったため、約2ヶ月ほどで京きやう都とに戻るもどることになりました。そして荻原井泉水おぎわらせいせんすいの紹しょう介かい、小豆島おまじまの井上いのうえ一二いちにや杉本すぎもと玄々子げんげんしの厚意こういにより、大正14年8月南郷庵みなんごあんでの生活せいかつが始はじまりました。

この経緯けいゐについて、放哉ほうさいの書簡しよかんと、「層雲そううん」に掲載けいさいされた井泉水いんすい・玄々子げんげんしの記事きじが朗読ろうどくされました。小豆島おまじまに来くることはすんなりと決きまったわけではなく、一二いちにと玄々子げんげんしが来島らいとうを断ことわろうとしていた時とき、その返事へんじを待まちたず来きてしまった放哉ほうさい。最終さいしゆう的には台湾行たいわんぎも決意けついしていながらも、とりあえず、という形かたちで始はじまった生活せいかつだったのです。

また、常高寺じやうかうじが破産寸前はさんすんぜんの寺てらであったことを知らなかつた放哉ほうさいにとって、それもまた「赴おもむく前まえと事情じじょうが違ちがった」という事ことだったのではないのでしょうか。



もうすぐ放哉ほうさいの入庵にゆうあん記念日きねんび〔8月20日〕です。朗読ろうどくされた書簡しよかんと記事きじは、赴おもむくまでの過か程ていが分わかり易やすく構こう成せいされており、「放哉ほうさい」南郷庵友かいほうの会かい報ほう33号けいさいに掲載られています。記念館きねんかんにありますので、ぜひ読よんで放哉ほうさいや支し援えん者しやの気き持もちを感かんじながら入庵日むかを迎むかえませんか。

第22回放哉ほうさいジュニア賞ゆうしやう優しゆ秀りやう賞しやう作品展さくひんてんが終しゆうりやう了りやうしました。子どもたちの日常にちじやうが上手うまく表ひやうげん現げんされていましてね。前向まえむききで明あるい句くがあつたり、哲てつ学がく的てきな句くだつたり、未み来らいへの希き望ぼうだつたり。どんな状じやう況きやうだつたのか、また、その気き持もちを考かんがえてみると、どどん想そう象ざうが膨ふくらんでいきました。展てん示じしていたのは優ゆう秀しゆう賞しやうだけでしたが、一いち覧らん冊さつし子しには各かく賞しやうの作さく品ひんを掲けい載さいしています。たたくささんの句くに触ふれることは上じやう達たつにもつなながります。勿もちろ論ろん、ジュニア賞しやうだけでなく放哉ほうさいさんの句く集しゆう、それ以外いがいの俳人はいじんの作さく品ひんもぜひ読よんでみてくだくださいね(*^_^*)



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	
●放哉だより発行日 □記念館休館日 □資料館休館日						

お詫び

第22回放哉ジュニア賞にて、受賞者のお名前を誤って記載しておりました。大変申し訳ございませんでした。

お詫びして訂正いたします。

- ・一覽冊子4ページ

{	正 入川希心
}	誤 入川希子
- ・大空～放哉だより～140号